

「小河内」便り 第39号 平成28年1月

特定非営利活動法人 小河内プロジェクト(理事長 安福孝昭)



連絡所 〒731-1171 広島市安佐北区安佐町小河内4579-3

安佐小河内集会所

TEL&FAX 082-835-0831

ホームページURL <http://ogauchi.web.fc2.com/>

遅まきながら新年、おめでとうございます。今年も当法人をご支援、ご協力をよろしくお願い致します。今年ある方から頂いた年賀状に「申・さる」は稲光の走るさま、をかたどった象形文字「伸びる」(新漢語林)の意味を表わす、とありました。そう言えば、伸は人と申ですね。世の中は常に「生成発展している」そうだ、未来に向かって伸びる年にしたいものです。この1年、健康で幸福な年でありますように。

目次

第7回「田舎暮らし体験塾」門松づくりとしめ縄づくり体験・・・	P 1～2
第8回「田舎暮らし体験塾」味噌づくりとそば打ち体験・・・	P 3
特別純米酒「白島ろまん」・・・	P 3
集落の現況⑦ 宇賀井野、下楓原・・・	P 4
編集後記・・・	P 4

第7回、田舎暮らし体験塾 12月19日(土) 門松づくりとしめ縄づくり体験 (塾生21名参加)



完成した門松に歓喜する塾生



立派な門松ができました、プロの腕前？



地元の達人から作り方を学ぶ



出来上がったしめ縄を手に笑顔の塾生

第8回、田舎暮らし体験塾 1月23日(土)

味噌づくりとそば打ち体験(塾生20名参加)



味噌づくりの講師、女性スタッフ



作り方を説明する講師、下本女性会長



味噌づくり初体験に挑戦する男性塾生



出来上がった味噌



講師の日野氏（４段）左と関口氏（３段）



日野氏の４段の認定証



関口講師から指導を受けながらそば切りをする塾生



早速試食をする塾生一家

特別純米酒「白島ろまん」販売中

白島商店会原本店が醸造した小河内産米の純米酒（白島ろまん）、今年は特別美味しいと評判、在庫が残り僅かですがご希望の方は集会所へお問合わせ下さい。

720ML入りを1,550円（消費税込み）で販売



集落の現況（自治会紹介）⑦

（数字は自治会長より聞き取りしたもの）

自治会（会長）	宇賀井野（中村房夫）		下楓原（政木真悟）	
	現在	昭和15年	現在	昭和15年
総世帯	14	11	11	19
自治会加入世帯（地区外、内数）	14（1）		11（0）	
総人口	32人		26人	
65歳以上 （高齢率）	23人 （71・8）		15人 （57・6）	
子供（14歳以下）	0		2	
一人暮らし世帯	1		3	
空き家（1年以上）	0		3	
現存する廃屋	0		0	

宇賀井野は、国道191号線から近く世帯数も殆ど変わらないが高齢者が多くなっている。自治会活動には積極的に参加している。若い人のUターンを望んでいる。



中村会長

下楓原は、男子2人の3世代家族と保育園に通っている女の子さんのいる家庭もありますが、やはり高齢者が多く、過疎化が進行しています。



政木会長

編集後記

田舎暮らし体験塾に応募された安田女子大学家政学部山内一晃教授のゼミ学生が「中山間地域の現状と活性化事業対策」をテーマに卒業論文、小河内地区の現状を調査、研究、下記の3つの活性化事業対策を提案した。外部の学生の視点からの提案で大変興味深く読ませて頂いた。

- 1、人口の増加に囚われない小河内の住民のための活性化にすること。
- 2、住民主体の活性化活動の推進。
- 3、活性化を行う分野を小河内の特徴である自然環境に絞ること。・・・である。

「活性化」のキーワードは、（地場）産業の起業、雇用、所得、若者の移住、人口増、賑わい、元気、住民の希望、生き甲斐、誇り等が挙げられよう。「活性化」の目的は、住民に、住んで良かった、住んでみたい、というような、住民に小河内に住んで、誇りが持て、安心感や幸福感に繋がることにある。それが学生の提案した、住民のため、住民主体、ということであろう。（S）